

施工段階		躯体工事		4	設備工事： 防水層貫通処理	シート番号 4-4
電気	空調	衛生	その他			
○	○	○	—			

ポイント

■施工要領書を定める

- ・防水層貫通は全箇所を抽出し、設備、部位、各項目ごとにリストに整理し、管理用に記号・番号を付けましょう。
- ・防水層貫通処理工法の詳細図も盛り込みましょう。

■施工図に反映させる

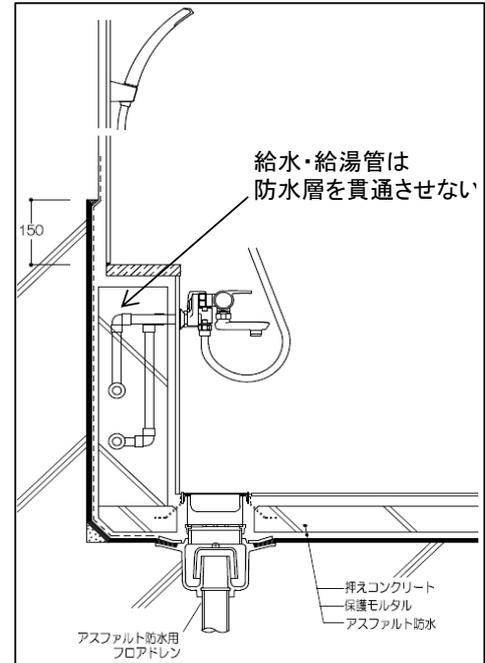
- ・防水層の範囲を明確にし、詳細を出来るだけ施工図に反映するようにしましょう。
- ・防水層貫通処理箇所は、全ての貫通箇所に通し番号を付けましょう。

■検査と記録方法

- ・工程ごとの施工の確認を確実にし、記録を写真に残しましょう。
- ・全箇所の出来形検査を行い、記録に残しましょう。

■容易に貫通させない

- ・排水以外は貫通しないルートを確認しましょう。
- ・防水層貫通部には、既製品の金物を活用しましょう。（右図参照）



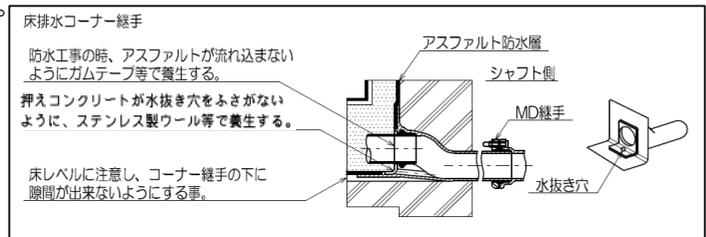
防水層貫通処理の例(排水管縦)

先輩アドバイス

- ・納まりについては、個別に防水業者とよく打合せをしましょう。
- ・全ての貫通箇所を自分の目で確認しましょう。また、防水満水試験に立会いましょう。
- ・工事を行う作業員は限定して明確にしましょう。
- ・打合せにおいて実物を用いて計画しましょう。

チェック項目

- 要領書でリストに整理し、管理用に記号・番号を付け、防水層貫通処理工法の詳細図を盛り込めていますか。
- 防水層の範囲を明確にし、詳細を施工図に反映していますか。
- 防水層貫通処理箇所は、全ての貫通箇所に通し番号を付けていますか。
- 工程ごとの施工の確認を確実にし、記録を写真に残せていますか。
- 全箇所の出来形検査を行い、記録に残せていますか。
- 排水以外において、貫通しないルートを確認できていますか。排水では、既製品の金物を活用していますか。



防水層貫通処理の例(排水管横)

失敗すると...

- ・漏水により物損や機能障害等の被害が発生します。
- ・漏水箇所を見つけるのに多大な時間を必要とします。
→漏水補修は、部分的には不可能であり、全面補修となります。
- ・要領書、施工図の内容が不十分であると、意図しない施工がなされ手戻りの原因となります。また、施工の記録を怠ると問題発生時に責任の所在が不明確となるので注意が必要です。

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	—	○	○	—	—	—	—	—	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：ダイドレ株式会社						改訂	2023年3月1日	